

2016年1月18日

札幌チャレラジオ通信 第2回

加納：三角山放送局をお聴きの皆さん、こんにちは。先週から始まりまして、札幌チャレラジオ通信の時間でございます。私はパーソナリティをしております、NPO法人札幌チャレンジの代表をしています加納です。よろしくお願いいたします。

この番組は先週から始まりまして。札幌チャレンジという団体は、障害のある方が、『ITでマザル、ハタラク、拓き合う。』社会を創りたい、との思いで活動をしている団体なんです。私たちがやっていることが、なかなかうまく世の中に伝えきれていないなあということがありまして、三角山放送局さんをお願いして、先週月曜日からこの2016年1年間、毎回毎回、札幌チャレンジの活動にかかわりのある人に来てもらって、そんな人との会話を通して札幌チャレンジのことを知っていただきたいなあということで始まりまして。今日はその2回目でございます。

通常こういう三角山放送局というコミュニティーFMラジオを使って、*ラジオの電波で聴いていただいている方が多いと思いますが、実は三角山放送局さんでは、ユーストリームでもこの放送の様子を中継されていまして、カメラがあります。

カメラに手を振ったりするとちょっとしたらホームページで見てくれて聴いてくれる方もいるかもしれませんが、始まりまして。30分ですが、ぜひ最後までお付き合いいただければと思います。

今日は第2回目ということで、先週は札幌チャレンジのルーツというべき、パソコン講習のところについて二人のスタッフが来て一緒に話をしましたが、今日は札幌チャレンジの二本柱があるのですが、二本柱の事業のなかの、働く、札幌チャレンジで働くという、就労支援という言い方をするのですが、その就労支援のことについて、皆さんにぜひ聴いていただければと思います。

今日は、その就労支援のスタッフが二人来ておりますので、まずは自己紹介をお願いします。では、佐藤さん。

佐藤：佐藤美貴と申します。設立直後から札幌チャレンジの趣旨に大変興味があって、ボランティアや運営委員などで関わっていましたが、2008年からは、加納理事長に誘われ、札幌チャレンジの正式な職員になりました。

現在は今先ほど言いました就労継続支援グループ A 型、通称就労グループのリーダーを務めています。今日はよろしくお願いします。

加納：はい、よろしくお願いします。では、林さんよろしくお願いします。

林：三角山放送局をお聴きの皆さん、こんにちは、私、札幌チャレンジドに今年で 5 年目になります、林裕岐といいます。今日はどうぞよろしくお願いします。

加納：はい、よろしくお願いします。

二人とも、もう始まる前、「ノミの心臓だから、もうばくばくだ」と言っておりましたが、がんばりましたよ。

林：はい、ばくばくです。

加納：たぶん、今が最高潮なんだと思いますが、まあまあ普段通り楽しくお喋りをできればいいかなと思いますが。佐藤美貴さんは、我々の間では通常、美貴さん、美貴さんと呼ばれていまして、佐藤さんっていうと、なんとなく逆にしゃべりづらいので美貴さんと呼ばせていただきますが。そうですね、美貴さんは 2008 年からですから、もうだいぶ経ちましたね。

佐藤：はい、今年で 8 年目になります。

加納：はい、札幌チャレンジドの就労の親方として、8 年間ずっと、「札幌チャレンジドで働く」というところを担当してもらって、どんどんどんどん働ける人が増えてきたということなのですが。札幌チャレンジドが、福祉の制度に基づいて『就労継続支援サービス』という言い方で、そういう制度があるのですけれども、その就労継続支援サービスって一般の方はほとんど聞いたことがないと思うんですよね。それはいったいどんなことをやっているものなのですか。まず概要を教えてください。

佐藤：先に林くんのほうから説明します。

加納：林くんでした。失礼しました。

林：就労継続支援サービスというものは、障害者総合支援法という法律に基づいて、行われる福祉サービスの一つになります。その中で、札幌チャレンジドでは就労継続支援事業の A 型というサービスを行っています。

就労継続支援 A 型の特長としては、雇用契約に基づいて、就労、お仕事をさせていただくという形になります。現在札幌チャレンジドのほうでは、事務所のほうに通勤をしていただいて、もしくは在宅にて仕事をさせていただいているという方がいらっしゃいます。

加納：なるほど、A 型があるということは、世の中には B 型も C 型もあるのでしょうか。

林：はい、そうですね。B 型、C 型はないのですけれども、B 型と A 型というものがあります。

加納：A 型の一番の特長はというと、雇用契約とおっしゃったけど、そこですかね。

林：そうですね。

加納：実際に雇用保険をかけて、働いている方が多いということですか。

林：そうですね、そうなりますね。はい。

加納：はい。分かりました。そういう制度に基づいて障害の方が、働く場を作っているわけですが、実際障害のある方が、どんな仕事をしてるのかということが、きっとラジオをお聴きの皆さんは関心があるんじゃないかと思うので、どんな仕事をしているのかを教えてください。

佐藤：就労グループでは、札幌チャレンジドと業務提携を結んだクライアントさんのお仕事をやっています。メインはパソコンを使った業務になります。札幌チャレンジドの仕事としましては、動画サイトの監視業務ですとか、海外航空券の予約サイトのデータベース入力、そのほか各種データ入力や、変わったところではイラスト制作などがあります。

加納：なるほど、なんだか難しい仕事をしているように聞こえるのですが、どうなのでしょう？ 例えば、海外航空券のデータベース入力、予約サイトのデータベース入力なんていうのはとっても難しく聞こえるのですが、もうちょっと平たくどんなふうに住事しているか教えていただけますか。

林：そうですね、基本的にはクライアントさんから資料をいただいて、それをクライアントさんで使っているデータベースを入力する、パソコンを使って入力できるフォーマットといますかソフトというものがありまして、そちらのほうに金額がいくらであるとか、どんなルールがあるのかということ資料から読み取って、それをパソコンで入力していくと

いう形になります。

加納：なるほど、皆さんがその障害者の方が一生懸命やっているものがどういう形で繁栄されているのでしょうか。その会社さんのサービスとして。

林：そうですね、一つは一般の方でも確認ができるのですけれども、インターネットのその会社さんの予約サイトに行っていて、実際に、例えば札幌からハワイに行きたいということで、いつからいつまで、ハワイでゆっくり過ごしたいということで、日付と、何人で行くのかとか、そういったことを入力していただくと、今その時期であれば、こういう金額でということで、データを検索して返してくれるという形になりますので、そこで使われているデータのほうが、札幌チャレンジドの就労グループのメンバーで入力しているデータが繁栄されているという形になるかと思います。

加納：なるほど。そういう仕事をやるのに、どんな能力というか、力があると仕事に向いてるのでしょうか。できるのでしょうか。パソコンがすごい得意でないとだめとかね。何かプログラミングが必要なのかとか何か分からないのだけど、いろんな能力って人にはあると思うのだけど、どんな能力があったらいいのでしょうか。

林：ぼくが今、ふと考えるところでは、やはり、一人でやっているお仕事ではないので、やはりみんなと一緒にできる力というものが、やはりどうしても必要になってくるかなというふうに思います。

また、その仕事に対してどういう関わり方をできるのかとか、やはり仕事に対してしっかりと向き合っただけの方が強いというか、しっかりとお仕事をさせていただいているのかなというふうには感じております。

加納：なるほどね。美貴さん、札幌チャレンジドでは、いろいろなお仕事があるのですけれども、割とワークシェア型というか、一つひとついろいろなお仕事をチームになってやるような感じがあるのですけれど、それはどうしてそういうふうになっているのですかね。

佐藤：はい、札幌チャレンジドとクライアントの業務の結び方として、たとえば二人分のお仕事という形でクライアントさんからはもらうのですが、実際問題として、病院に行くこととか、また、メンタルの障害をお持ちの方だと、季節によって体調が苦連れ足りとか、メンタルいがいの方でも、急に入院されたりとか、長期の治療が必要になったりする方もいます。そういった方も継続して安心して働けるために、ワークシェアリングの形をとってます。

加納：なるほど。企業さんから見たときに、ワークシェアリングでやってるということに対

する評価とか聞かれたことありますか。

佐藤：そうですね、安心して仕事をお任せできるということが、やはり企業さんも、担当していただいた方とは長く付き合いたいという気持ちがあるようなので、やはりそういった意味で安心してその人なりで働けるということにすごく評価をいただいています。

加納：なるほど、そうですね。分かりました。

あともう一つくらい、すこしちがった種類の仕事を思い浮かぶもの、お二人どうですか。今やった、航空券の予約サイトとか、動画の監視サイト以外にも、ちょっとこんな仕事もやってるんです、というのはありますか。

佐藤：イベントサイトのデータ入力のお仕事があります。

加納：イベントサイト。もうちょっと、世の中いろんなイベントがある、音楽とか、なにかいろんなそういうイベントですか。

佐藤：音楽とか、いろんな行事全部なんですけど。

加納：日本中。

佐藤：日本中ですね。具体的にいったほうがいいのかな。

加納：そうですね。もうちょっと具体的に。

佐藤：びもーるさんっていう、びもーるってひらがなで書くんですけど、そちらのイベントサイトのデータ入力を担当させてもらってます。

加納：なるほど。

佐藤：はい。

加納：はい。びもーるさんって、実は北海道大学から生まれた会社さんの運営しているサイトで大学初のベンチャー事業なんですよ。

そこにお声掛けをいただいて今いっしょにやらせていただいているということですね。

はい、ありがとうございます。

ということで、あっというまにもう半分くらいの時間がたっしてしましましてですね、ここで、

中休みで、リクエストの曲をかけたいのですが、先週実はですね、さっそく第 1 回目からですね、リクエストの曲をいただきまして、ありがたいなと思ひまして、リラクさんからですね、ライラックさん、ごめんなさい、ライラックさんから、山下達郎さんの曲で、ゆわー合図です。お聞きください。

<CM>

加納：三角山放送局の皆さん、札幌チャレラジオ通信、後半のほうには行ってきたいと思いますが、今日は、札幌チャレンジドで、働く、ということで、就労支援の担当をしている、二人に来ていただいています、先ほどはどんな仕事をしているかっていうことと少し詳しく聞いたのですが、実際に働いている人のイメージをぜひですね、番組をお聴きの皆さんにもうすこし、つかんでいただきたいなと思うので、話せる範囲で、障害の内容であるとか、どんな方が、働いておられるのか、教えていただけますか。

林：身体障害者手帳をお持ちの方が、5 割くらいですね。精神とか、発達障害などの方が 5 割程度という感じになっています。平均年齢は大体 36 歳くらいになります。

加納：男女はどのようなのですか。

林：男女はいま、半々くらいです。

加納：半々くらいですか。毎日、26~30 人くらいの方が、在宅も含めてですけども、働いておられるから、その半数ずつくらいが、男女ということですね。在宅の話がちょっとでたのですが、在宅で働いてる人は、障害の内容とかはだいぶ違うのですかね。

佐藤：在宅で働いてる方は、重度の身体障害の方とか、あと、札幌は 4 か月位は雪で歩きづらいつらいつらでもありますので、そういった事情で、通年通して働けない方ですとか、あとは、札幌チャレンジド自体が街中にありますので、交通量とかを考えて、人ごみが苦手なメンタルの方ですとかにたいして、事情をお聴きしたうえで、在宅を対応してもらってます。

加納：なるほどね。体の事情、心の事情でなかなか外には出かけて、働けない方は、在宅でやってる。在宅でやってる方も、さっき聞いたような仕事を同じようにやってるのでしょうか。

佐藤：はい。クライアントさんの業務提携の内容によりまして、在宅でも大丈夫な仕事は、通所・在宅、条件同じようにやってます。

加納：なるほど。年数、長い人は、けっこう長く、何年くらいとか、何年くらいの人が多いとか、どうですか。

佐藤：そうですね。2006年に自立支援法ができてからの計算でいきますと、その年からすでにいる方が結構いますので、来年10年選手が結構、ごろごろといますねえ。

加納：すごいですね、10年間ずっと毎日一生懸命来て働いているわけだ。今日は、そんなメンバーから、ひと声ふた声、なにかかけられてきました？聴いてるよ。とか。

林：ちょっと休憩中に緊張してたので、うなだれてたら、「大丈夫ですか。」とか、声かけていただいて。

加納：基本的にメンバーの人たちは、札チャレの事務所や、家で仕事をしているはずなんだけど、ひょっとしたら、なかには、ラジオやスマホで聴いてくれている人もかもしれませんね。ぜひぜひ後から感想を聞いてみてください。

加納：実際にそういったメンバーの人たちがですね、毎日一生懸命働いているのですが、二人の仕事はですね、クライアントさんと実際に仕事をするメンバーとの間に入りながらですね、一つは仕事のマッチングをしているということがあると思うのですが、仕事のマッチングというのは非常に大切に思うのですが、どんなことに気を付けてとかですね、マッチングの考え方みたいなのところをですが、もう少し聴かせていただけますか。

佐藤：クライアントさんのいろんな業務内容とですね、札幌チャレンジドで働きたいという方のマッチングに対してはですね、まずその人のスキルや適性がそもそも仕事に合うのかなという目的で、1週間程度の体験を最初にまず最初にやってもらってます。

加納：はい。

佐藤：その体験の間に、その担当候補の方がどのような障害特性があるかとか、パソコンスキルがあるかというのは当たり前に見えますけど、それ以外にも、その方の潜在能力とか、仕事へのこだわり、あとはモチベーションとか、場合によってはストレスがどれくらい耐えられる方なのかとか、セルフマネジメントはどうかとか、その人トータルの魅力をできるだけ把握する場を1週間で作ってます。

その結果、クライアントさんとの仕事でこの方にあう仕事があればぜひお願いしたいという内容でマッチングをしています。

加納：なるほど。その体験っていうのは、実際にクライアントの企業さんからいただいている仕事を、同じようにやるのですか、それともなにかデモてきなものがあるのですか。

佐藤：やはり守秘義務があるので、そのままはお見せできないものがほとんどなのですが、場合によってはなるべく近い仕事でやっていますし、また、それをだしていいですよという企業さんもあるので、そういうのをやっています。

加納：きわめて実務に近い中で実際に仕事をやってもらって、その方が、その仕事にあうか、ちょっと厳しいか、そういうことを見ているわけですね。

佐藤：そうですね。

加納：1週間という限られた時間のなかで、割と分かりやすい適性の方と、なかなかその方の適性のつかめない方ってやはりあると思うのですけれども、そのつかめない方のときにはどんな工夫をしたりとか、どんなことを考えながら、やっていますか。ちょっと難しい質問かもしれないけど、どういうところに目配り気配りしながら、やってるのかというのをぜひ聴きたいなあと思うのですが。二人、どちらでも結構なのですけれども。

佐藤：雇用体制のことに対していえば、雇用後も私用機関というものを設けていまして、その方が本当にそれに合うのかなあっていうのは見えます。ただ、いろいろな仕事があるので、どうしてもそれに合わなかったら、終わりということではなくて、別ないろいろな組み合わせを考えながら、どうしたらその人のペースでその仕事ができるのかっていうのは、いろいろ考えて進めています。

加納：なるほど、そうすると、選択肢の多さっていうのは、結構重要になってくるのでしょうかね。

林：そうですね、選択肢が多いのはやはり重要ですね。

加納：今はわりと、データ入力系の仕事が多いような話なんだけれど、データ入力とは全く違う種類の仕事っていうのはありますか。

佐藤：フォトショップを使った画像の切り抜きのお仕事とかもありますし、あとは、さっきちらっと言いましたが、イラストのお仕事とかもあります。

加納：イラストも描くのですか。具体的にイラストで私たちが目にしたような成果物とかあ

りますか。

佐藤：そうですね。イラストのお仕事で大きいとしたら、札幌市のゴミカレンダーですね。

加納：あー、ゴミカレンダー。何曜日になんのゴミの日とかっていうあのカレンダーですか。

佐藤：そうですね。配布版のほうではなくてWEBからのダウンロード版なのですが、月めくりカレンダーがあります。あとはですね、外国語バージョンというのがありまして、そちらのほうを私たちのほうで今年も担当させていただきました。

加納：札幌市の公式のゴミカレンダーのインターネット版は全部札幌チャレで作ってるのですか。

佐藤：そうです。

加納：なかなかその仕事に携わっている人は結構嬉しいというか、「私がやってるの」みたいな自信についたりとかするんじゃないですかね。どうですかね。

佐藤：そうですね。その人はもちろんですけど、その人じゃなくても、やはりそういった仕事をやってるというのが札幌チャレンジ全体の自信に繋がりますので、就労メンバー全員で「よかった」というか「自信」をもってやってます。

加納：なるほど、自信ですね。この自信というのが大切な気がするのですが、林さんは、チャレンジのメンバー、普段一緒に仕事をしてはいますが、自信ということ 키워ドに何か思うところとか感じる場所ありますか。

林：自信ですね。そうですね。やはり最初来ていただいてやっていくなかで、やはり少しずつ業務の幅が広がっていくというような形を頑張って皆で作っていているのですが、そのなかで、業務が広がって行って、「あ、次はこれをやりたい」とか、「こんなことをしてみたい」とか、「これだったら自分できます」、とか、「どうですか、これやってみませんか」「ではやります」とかですね、やはりそういう形で、少しずつ自分の業務を広げていくということを、積極的にですね、やっていただけるときにですね、やっていただけるときにですね、「自信」というものがついていってるのじゃないかなというのを感じるのかなと思いますね。

加納：なるほど、本当にそうですね。一人一人をみていても、最初はみんな自信なさそうに

うつむき加減で、ちょっとくらい感じがあるのだけど、だんだんだんだん、顔があがってきて、ニコニコしながら、休憩室でも、笑い声が漏れてくるという、シーンがよく見ますから。仕事をとおして自信をしっかりとつけてもらうということが、その人の QOL っていうのか、クオリティーオブライフにとっても非常に重要なのかなと思いますね。

はい、ということで、この音楽が流れてきますと、この札幌チャレンジ通信も残り 2 分というサインでございまして、はい、どうでしたか、美貴さん、今日の感想は。話したいこと話せましたか。

佐藤：はい。就労グループのメンバーの代表としてきて、ちゃんといえているかどうか分からないのですが、戻ってまたメンバーに「あれがいいたりなかった」とか、だめだしを聴こうと思います。

加納：林さん、どうですか。

林：緊張して、なにを喋ってるのか自分で覚えてないと思うのですがけれども、楽しくお話できて、とても、ありがとうございました。

加納：はい、ありがとうございます。覚えてなくても大丈夫ですから、見えるラジオということで、毎回毎回テープ起こしで文字で残していきますので、あとで、それを読んでみるとですね、自分がなにを喋ったのかが分かる仕組みになっておりますので、まあまあそんな冗談はさておき、今週は札幌チャレンジドで、働く、ということで、就労支援の二人にきていただきました。

加納：来週は、札幌チャレンジドのなかの、働く、というテーマのもうひとつの柱がありまして、企業で働く、というお手伝いも札幌チャレンジドでしてまして、就労移行支援ということなのですが、その就職支援のメンバーにきてもらってですね、またお伝えしていきたいと思います。今日は、二人、ありがとうございました。それではみなさんさようなら。